

てなどのパネル展示を行った。多くの方がブースを訪れ、被害者支援について関心を寄せてくださった。

会場内の特設舞台では、当センター初めての試みとして、支援員がにわか女優となり、寸劇を行った。被害に遭った方にどのように接し、どのような言葉をかけたらよいかを寸劇と解説によりPRした。当センターの支援員の熱のこもった演技を多くの方がうなずきながら見てくださり、大いに好評を得た。早速、翌日の新聞に掲載された。



### 3. 熊本支援センター

「心の声が聞こえますか」 ～いのちのうた・ヤングサミットの開催～

社団法人 熊本犯罪被害者支援センター

熊本犯罪被害者支援センターでは、犯罪被害者に対するいたわりの心を育むとともに、犯罪のない地域社会の実現を目指し、「犯罪被害者支援の日」記念事業として、一行詩「いのちのうた」コンテスト及び中・高校生によるパネルディスカッション「ヤングサミット」を開催している。

メインテーマを「心の声が聞こえますか」～未来へつなぐ ひとつのいのち～とし、特に、若い世代へ「命の尊さ」を考えるきっかけとなるように、また教育関係者や保護者、ひいては地域社会における被害者支援意識の高まりを期待し、毎年実施している。

昨年度一行詩「いのちのうた」には、4,741編の応募があり、学校を挙げての取組も見られた。「ヤングサミット」では、熊本県内の中・高校生37人と県警本部長や熊本市長、県教育委員がコメンテーターとして参加し、少年犯罪や自殺サイトをキーワードに「命」や「生きる意味」についてフリートーク形式で討論し、それぞれの体験を基に率直な思いを語り合った。



提供：NPO 法人全国被害者支援ネットワーク

Column